

青少年活動センターのページ

東山青少年活動センター

創作ダンスを楽しく ココロからだンス W.S

恥ずかしさも、惨めさも、嫉妬も、羨望も、
友情も、ガッツポーズも、練習後のおいしいビールも、
ここには全部があった、かもしれない。
ただ一つ、最後まで、予定調和だけが、なかった。
それは、生きること、そのものかもしれないと、思った。

〈修了公演パンフの参加者メッセージより〉



東山青少年活動センターでは、演劇やダンス初心者を対象に、舞台公演づくりという共通の目標を成し遂げる活動でグループ体験の機会提供を行い、青少年の自分づくりを支援しています。その一つ、創作ダンス事業の始まりは、1994（平成6）年の中京青年の家（現中京青少年活動センター）。モダンダンスワークショップという事業名でスタートしました。これは、コンテンポラリーダンサーの砂連尾理さんと寺田美砂子さんを講師に迎え、半年間をかけて創作ダンスの自主公演づくりを目指すというものでした。当時、ワークショップということば自体あまり世の中

には浸透してはなく、コンテンポラリーダンスと聞いて、すぐにわかる人も少なかった。3年目からは事業名をDance Performance Workと改め、プログラム内容も少し整理をして、その後、少しずつ改良を加えながら、2004（平成16）年まで11年間実施しました。2005（平成17）年からは、その後継事業として、同じくコンテンポラリーダンサーの佐藤健太郎さんと大槻弥生さん（2008年まで）をナ



ビゲーターに迎え、ココロからだンス W.S を実施しています。修了公演の前には、近隣の学校を訪問して児童・生徒とダンスで交流し、創作途中の作品の中間発表もしています。

参加者のニーズは踊りたいということにとどまらず、もっと広い意味で体を動かしたい、体のことも含め、自分自身のことをもっと知りたい、あるいは変えたい、ストレスを発散したい、何か打ち込むものがほしい、公演づくりによって日々の充実感や、やり遂げる達成感を感じたいなど様々な期待も知ることができます。

創作ダンスの作品づくりの特徴は、なかなか思うように動かない自分の体を意識することから始まります。自分の体と向き合う作業は4か月間にも及びますが、その作業は、自分の体についての記憶も一緒に呼び覚まし、同時に、それに付随する感情なども思い出され、ダンス創作をしながら、自分自身の内面的な出来事の整理も同時にしなければならないという場面も生まれます。



参加者は公募なので、集まった者はお互いに初対面の知らない者同士で、生活環境や価値観もそれぞれ違いますが、ワークショップの最終目標である、修了公演の実施という参加者共通の目標が、参加者同士をつなげていく大きな要素となっています。最初は個々に内向きになりがちな創作作業も、ペアや数人でのダンスを創作するワークを繰り返し行なう中で、最初は遠慮がちで「自分がうまくできないのに、他のメンバーに対しては何も言えない」という雰囲気だったものが、共通の目的である公演づくりに向けて少しずつ意見を言い合うようになり、それによってお互いの理解が進み、信頼関係を築き、最終的には全員で表現することへの責任を持つという空気になります。

公演終了後のふりかえりでよく語られるのは、自分の体に対する発見です。箸の持ち方や歩き方のくせに始まり、筋肉の使い方のくせなど、自分の日常的な動作が意識化されることで、それが自分の体に対する見方にも変化をもたらします。そうした変化は、自分の体だけでなく、人や物との関わり方、認識が変化し、さらには大きなライフスタイルの変化にもつながっていきます。次は受容性です。自分と向き合って搾り出すようにして出てきた動きが、その人らしいダンスとして尊重される、そ

の人のコンプレックスも含めて、その人らしさがそのままダンスになっている、という見方が創作ダンスの大きな特徴で、素に近い自分が受容されたという体験が得られるのです。3つ目は、価値観の幅が広がったということです。受容的な雰囲気によって他の参加者との交流が進み、その中でお互いの価値観を認め合うことで、自分の価値観も少し揺さぶられた結果です。以上のようないくつかの変化は自分づくりの大きなヒントとなり、事業終了後も参加者それぞれの次の生活場面に活かされています。ぜひこの機会に創作ダンスにふれてみてください。

最後に「丸ごと半年ダンスのススメ」のご紹介です。今年から中学校の1・2年生の体育の授業で創作ダンスが必須となりました。「どうやって創作したらいいの?」「具体的な創作の仕方を知りたい」と困っておられる先生方も多いと聞きます。そこで、コンテンポラリーダンスユニットのセレノグラフィカ（京都市のようこそアーティストとしても活躍）とセンターが共同で、中学校の先生や児童館・学童などの職員を対象に、体育の授業や普段の活動にも役立つ創作ダンスの作り方を、自身も楽しみながら学ぶことができるワークショップを、10月から毎月1回実施することになりました。最終月の3月には、プロのダンサーによる作品と合わせて、ワークショップ参加メンバーで創作したダンス作品も一緒に上演します。12月には、その関連企画として、セレノグラフィカが振付けた静岡市民ダンサーズ他の舞台公演を、ダンサーによる解説付きのダンス作品鑑賞体験も実施する予定です。わかりにくい創作ダンスの楽しみ方を少しでも知ってもらおうという新しい試みです。



（東山青少年活動センター チーフユースワーカー 西田尚浩）

ココロからだンス W.S #8

参加者募集中

- 11月29日より毎週月・木曜日 18:00 から 21:00
(祝日は 15:00 ~ 18:00)
- 説明会 11月22日(木) 19:00 から
- 公演準備日 2月24 ~ 26・28日
- リハーサル 3月1日
- 公演日 3月2日・3日

